

# News Release

2014年7月28日  
日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社

## インド国営大手金融機関 Bank of Baroda が 日立オムロンターミナルソリューションズの ATM で、 インド初の紙幣リサイクル運用を開始 現金警送コスト削減と資金の運用効率化を実現

日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社(代表取締役社長:下條 哲司)は、このたび、インドの国営大手金融機関 Bank of Baroda (以下、BOB)と共同で、同行で稼働する当社 ATM を、従来の入金での利用から、入金した紙幣を装置内部で還流し出金用の紙幣として利用するリサイクル(紙幣還流)運用への切り替えを実施したことをお知らせします。これにより、BOB がインドで初めて ATM のリサイクル運用を開始した銀行になりました。



インド初のリサイクル運用を開始した紙幣還流式 ATM HT-2845-V

BOB はインド国営大手の金融機関でインド全土と海外に 4800 以上の店舗を有しています。当社は 2013 年に、BOB に紙幣還流式 ATM を 100 台納入しました。しかし、当時は ATM の上位サーバと勘定系システムが ATM のリサイクル運用をサポートしていなかったため、紙幣一括投入可能な入金機として稼働させていました。当社と BOB が共同でシステムのアップグレードを実施し、今回ムンバイ市内の支店にて ATM のリサイクル運用を開始しました。ATM のリサイクル運用により、ATM 内の紙幣の補充・回収の頻度が減るため、現金警送が効率化でき、さらに資金の運用効率も高めることが可能になります。

インドの金融機関で稼働する ATM は、海外の他の国・地域と同様にこれまで出金専用の CD が市場の大半を占めていました。中国をはじめアジアを中心に、経済の成長に伴い、金融機関における効率化や利用者による入金などのニーズの高まりから、一台で入出金可能な紙幣還流式 ATM の導入が進んでいます。日本では 99%以上の ATM がリサイクル運用です。中国でも金融機関で導入される ATM の約半分が紙幣還流式 ATM であり、リサイクル運用が普及しはじめています。この潮流は世界に広がっています。

紙幣還流式 ATM のリサイクル運用では、ATM に紙幣を装填・回収する頻度を減らすことができ、現金警送にかかるコストを削減するとともに、ATM に補充するために準備する現金量を減らすことが可能になり、資金の運用効率を高めることができます。当社は、今後もインド市場において紙幣還流式 ATM のシェア No.1 を維持するとともに、さらに拡大させてまいります。

# News Release

■日立オムロンターミナルソリューションズの執行役員 海外事業部長 村山幸吉のコメント

「当社は 2010 年にインド市場に参入し、入金運用における最適なソリューションを提供するために努力を続けてきました。今回、我々の重要な顧客、BOB とともに ATM のリサイクル運用を開始できたことに、感慨深いものがあります。当社の紙幣還流式 ATM が BOB の業務オペレーションの効率を改善できると確信しています」

■製品に関するお問い合わせ先

日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社 海外事業部 事業戦略部 [担当:近藤]

〒141-8576 東京都品川区大崎一丁目 6 番 3 号 大崎ニューシティ 3 号館

<https://www8.hitachi.co.jp/inquiry/hitachi-omron-ts/overseas/jp/form.jsp>

■報道関係お問い合わせ先

日立オムロンターミナルソリューションズ株式会社 経営企画室 経営企画部 [担当:二木、大畑]

〒141-8576 東京都品川区大崎一丁目 6 番 3 号 大崎ニューシティ 3 号館

TEL:03-5719-6009(ダイヤルイン)

以 上